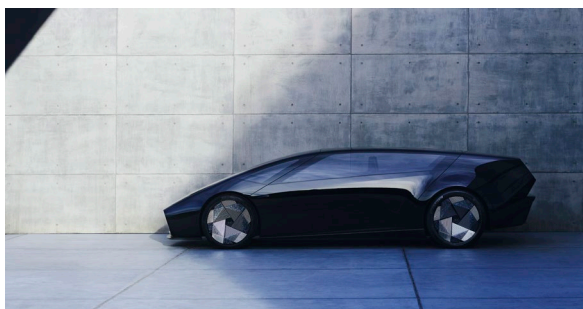


新グローバルEV「Honda 0シリーズ」をCES 2024で世界初公開 ～次世代EV向けの新「Hマーク」エンブレムを採用～

- 2026年より北米市場を皮切りに新たなEV「Honda 0（ゼロ）シリーズ」をグローバルで展開
- Honda 0シリーズのコンセプトモデルとして、
「SALOON（サルーン）」、「SPACE-HUB（スペース ハブ）」をCES 2024で世界初公開
- 次世代EVへの新たな決意を示す、新「Hマーク」を世界初公開
- Honda 0シリーズは新たな開発アプローチ「Thin, Light, and Wise（シン ライト アンド ワイズ）」を軸に以下の5つのコアバリューを提供
「①共鳴を呼ぶ芸術的なデザイン」、「②安全・安心のAD/ADAS」、「③IoT・コネクテッドによる新たな空間価値」、「④人車一体の操る喜び」、「⑤高い電費性能」

Hondaは、米国ネバダ州ラスベガス市で開催されているCES 2024において、2026年よりグローバル市場への投入を開始する新たなEV「Honda 0（ゼロ）シリーズ」を発表するとともに、そのコンセプトモデルである「SALOON（サルーン）」、「SPACE-HUB（スペース ハブ）」、そして次世代EV向けの新「Hマーク」を世界初公開しました。



Honda 0シリーズ コンセプトモデル「SALOON」、「SPACE-HUB」

「Honda 0シリーズ」特設サイト

<https://0.honda.jp/>

Honda は、グローバルブランドスローガン「The Power of Dreams — How we move you.」を掲げ、取り組んでいます。これは、Honda の夢をかたちにした「時間や空間といったさまざまな制約から人を解放するモビリティ」や、「人の能力と可能性を拡張するモビリティ」により、より多くの人々の夢の実現を後押しし、社会を前進させるための原動力となっていく、という思いを込めています。

また Honda は、2050 年に Honda の関わる全ての製品と企業活動を通じたカーボンニュートラルを目指しています。その実現に向け、四輪車においては 2040 年までに EV・FCEV 販売比率をグローバルで 100%とする目標を掲げ、電動化に取り組んでいます。

Honda 0 シリーズは、グローバルブランドスローガンや電動化方針のもと、大きく変革する Honda を象徴する EV シリーズです。新たな EV シリーズの開発にあたり、「Honda のクルマづくりの出発点に立ち返り、ゼロから全く新しい EV を創造していく」という決意が込められています。Honda がクルマづくりで大切にしてきた理念である「M・M 思想^{※1}」と「操る喜び」、そして「自由な移動の喜び」をさらなる高みへと進化させることを目指します。Honda は、その第 1 弾となるモデルを、2026 年より北米市場を皮切りに、日本、アジア、欧州、アフリカ・中東、南米と、グローバル各地域へ投入していきます。

※1 マン・マキシマム／メカ・ミニマム思想。人間のためのスペースは最大に、機械のためのスペースは最小限にして、クルマのスペース効率を高めようとする、Honda のクルマづくりの基本的な考え方

【Honda 0 シリーズについて】

■ 「0」に込めた思い

1. Honda の歴史：原点・出発点の「ゼロ」

「M・M 思想」と「操る喜び」、そして「自由な移動の喜び」といった、これまで大切にしてきた今後も変わることのない Honda の原点に立ち返り、次世代の Honda として新たな起点をつくる

2. グローバルブランドスローガンの実践：「ゼロ」から創った価値で人の心を動かす

グローバルブランドスローガン「The Power of Dreams — How we move you.」のもと、常に「夢」を動機に、ゼロからの独創的な発想で新価値創造に取り組むことで、お客様にとっても新たな起点となる体験を提供し、人を動かし、心を動かしていく

3. 社会に向けた取り組み：「ゼロ」への決意

企業活動を含めたライフサイクルでの「環境負荷ゼロ」、Honda の二輪・四輪が関与する「交通事故死者ゼロ」の達成に向けた決意



■ EV 開発アプローチ「Thin, Light, and Wise」と5つのコアバリュー

Honda 0 シリーズの開発にあたり、「これからの時代に Honda が創りたい EV とは何か」を原点から見つめ直しました。長い航続距離を確保するためのバッテリー搭載量の増加や、それを搭載するための車体やプラットフォームの大型化などによる、“厚くて重い” EV という制約から解放し、新たな EV の価値を創造することを目指します。この新たな EV 開発アプローチを「Thin, Light, and Wise（薄い、軽い、賢い）」と表現しています。

Thin :

フロア高を抑えた“薄い”EV 専用プラットフォームにより、低全高のスタイルなどデザインの可能性を拡張するとともに、高い空力性能を実現していきます

Light :

原点に立ち返って生み出した独自技術で、これまでの EV の定説を覆す軽快な走りと電費性能を実現していきます

Wise :

これまで培ってきた知見と智能化技術の進化により、クルマそのものが賢くなる、Honda 独自のソフトウェアデファインドモビリティを実現していきます

この開発アプローチのもと、専用開発したアーキテクチャーを軸に、「①共鳴を呼ぶ芸術的なデザイン」、「②安全・安心の AD/ADAS」、「③IoT・コネクテッドによる新たな空間価値」、「④人車一体の操る喜び」、「⑤高い電費性能」という5つのコアバリューを提供していきます。

・5つのコアバリュー

①共鳴を呼ぶ芸術的なデザイン

デザインコンセプトは「The Art of Resonance (ジ アート オブ レゾナンス)」です。「環境、社会、ユーザーとの共鳴」をテーマに、見る者の共鳴を呼び起こし、暮らしの可能性を広げるサステナブルなモビリティを提供します。

②安全・安心のAD/ADAS

Honda は、2021 年に自動運転レベル 3：条件付自動運転車（限定領域）に適合する先進技術を有する「Honda SENSING Elite（ホンダ センシング エリート）」を搭載した「LEGEND（レジェンド）」を発売し、自動運転レベル 3 を実用化しました。ここで培った技術を世界中のお客様にお届けするため、Honda 0 シリーズでは、Honda SENSING Elite の技術を活用した ADAS（先進運転支援システム）の採用に加え、2020 年代後半には、AD（自動運転システム）を採用し、より多くのお客様が手の届く自動運転車として展開していきます。

この自動運転システムは、「人間中心」という哲学のもと培った Honda の安全思想をベースに、AI、センシング、認識判断、ドライバーモニターといった知能化技術の進化により、人の感性に近い、自然で高精度な危険予測を可能とし、安全・安心な自動運転の実現を目指します。

これにより、高速道路における自動運転領域を拡大するとともに、現在、高速道路のみで使用可能なハンズオフ機能を、一般道でも一部利用可能とすることを目指し開発を進めています。

③IoT・コネクテッドによる新たな空間価値

Honda 独自のビークル OS を軸とする IoT・コネクテッド技術により「運転して楽しい、使って楽しい、繋がって楽しい」という価値の提供を目指します。AI やビッグデータの活用により、音楽などのユーザーの好みや運転中の行動傾向をクルマが学習し、さまざまな提案をします。さらに、下車後から目的地までのラストワンマイルも、クルマが周辺情報や経路を教えてくれるなど、ユーザーの気持ちを理解するかのような価値を提案します。使えば使うほどクルマとユーザーが親密になり、生活のさまざまな場面において「繋がる楽しさ」を提供します。

④人車一体の操る喜び

Honda 独自の電動化技術とダイナミクス技術により、軽快で、心も身体もクルマと一体になる高揚感を得られる次世代の操る喜びの提供を目指します。

また、Honda 0 シリーズの低全高のスタイルに、モータースポーツで鍛え上げた空力技術を惜しみなく投入することで、空力性能、ダイナミクス性能、デザインを高次元で融合させます。

⑤高い電費性能

ハイブリッド車の開発などで培った電動化技術をベースにエネルギー効率を突き詰め、高い電費性能を実現していきます。具体的には、電気変換効率やパッケージングに優れた e-Axle（イーアクスル）※2、軽量で高密度なバッテリーパック、高い空力性能により、バッテリー搭載量を最小限にしながら十分な航続距離を目指します。

また、EV の普及において課題となる「充電時間」や「バッテリー劣化」への不安に対しても、ストレスフリーな充電性能と、長年使用しても性能劣化が少ない安心のバッテリー性能を提供します。20 年代後半に投入する Honda 0 シリーズモデルでは、15%~80%急速充電時間を 10~15 分程度に短縮するとともに、100 万台を超えるリチウムイオン電池搭載車の膨大な走行データをベースに培ったバッテリーシステム制御技術により、使用開始から 10 年後のバッテリー劣化率は 10%以下を目指します。

※2 モーター、インバータ、ギヤボックスにより電力から動力へのエネルギー変換を担うシステム

■ Honda 0 シリーズを象徴するコンセプトモデル「SALOON」「SPACE-HUB」

<SALOON>

Thin, Light, and Wise を体現する、Honda 0 シリーズのフラッグシップコンセプトモデル。EV 専用アーキテクチャーにより、デザインの自由度を拡張し、EV 時代において M・M 思想を昇華させました。一目見て他との違いを感じさせる低全高でスポーティーなスタイルは、その魅惑的なデザインだけではなく、外観からは想像できないほどの広い室内空間も両立しています。また、インパネはシンプルで直感的な操作が可能な HMI（ヒューマン・マシン・インターフェース）を採用し、洗練されたシームレスな UI（ユーザー・インターフェース）を実現しました。このような爽快な視界と、直感的な操作が可能な UI により、ドライバーの感性に共鳴する楽しいドライビング体験の提供を目指します。

さらに、ステア・バイ・ワイヤの採用に加え、Honda 独自のロボティクス技術で培った姿勢制御などのモーションマネジメントシステムをさらに進化させることで、さまざまな走行シーンにおいてドライバーの思い通りのコントロールの実現を目指し、0 シリーズのフラッグシップとして、EV 時代における究極の「操る喜び」を追求しています。また、内外装にサステナブルマテリアルを採用するなど、ユーザーや環境との共鳴を呼ぶ、独創的なモデルを目指します。

SALOON コンセプトムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=87qnsLic5hw>



<SPACE-HUB>

Honda 0 シリーズ共通のデザイン言語のもと、「人々の暮らしの拡張」を提供することをテーマに開発したモビリティ。Thin, Light, and Wise の開発アプローチにより、広々とした空間と見晴らしの良い視界を実現し、「ユーザーの『やりたい』に即座に応えるフレキシブルな空間を備える SPACE-HUB が、人と人、人と社会をつなぐハブとなり共鳴を生み出す」という思いを込めています。

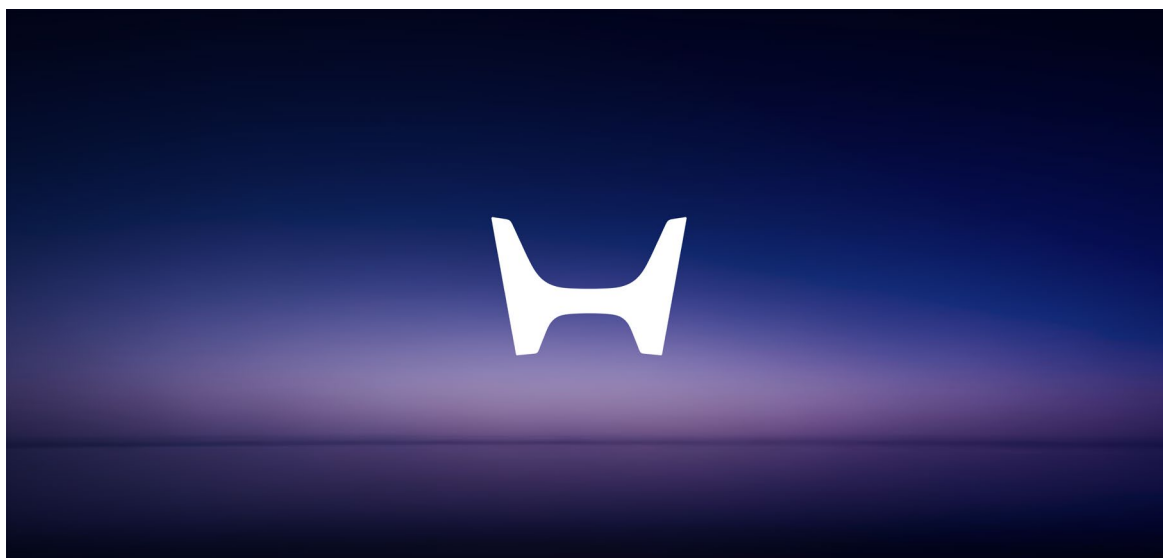
SPACE-HUB コンセプトムービー

https://www.youtube.com/watch?v=FIEUw_8l6QY



【新「Hマーク」について】

現在の H マークは 1981 年に改定されて以降、その歴史を重ねてきました。今回、次世代の EV を新たに開発するにあたり、Honda 四輪車の象徴である H マークを新たにデザインすることで、変革への思いを示すとともに、原点を超え、挑戦と進化を絶えず追い求める Honda の企業姿勢を表現しています。また、両手を広げたようなデザインは、モビリティの可能性を拡張し、ユーザーに向き合う姿勢を表現しています。この新たな H マークは、Honda 0 シリーズを含む Honda の次世代 EV に採用されます。



CES 2024 Honda プレスカンファレンスは、以下の URL からご覧いただけます
https://www.youtube.com/watch?v=jYdfi_zkQDQ